

人が作った森



公益社団法人
北海道森と緑の会
理事長
堀 達也

東京の明治神宮の森。行かれた方も多いかと思えます。「都会の真ん中によくこれほどの森が残ったものだ」という感想を抱く方も多いそうです。しかし、この森は、残ったのではなく、人が作りあげた森なのです。

今年のお正月にNHKテレビでも紹介され、興味深く見ました。100年ほど前、日本で最初の林学博士である本田静六、造園家の本郷高德、日本の造園学の祖とされる上原敬二などが集まって、明治神宮の創建に合わせて、もともとほとんど木のない荒地地であったこの場所に森を作ったのです。彼らは100年後、200年後の森の姿を描き、そこに至る入念な計画をたて、日本全国から10万本ほどの樹木を集め、5年がかりで植栽をしてきました。テレビでは、今回行われた大規模な学術調査の様子も報じられ、この森では、タヌキや

オオタカをはじめ、昆虫や菌類などが2,800種以上確認され、東京では絶滅したと思われる希少な生物も発見されたそうです。中心となった本田静六は、明治神宮以外でも、日比谷公園を始め多くの公園や地域の修景などの設計に関わってきた方で、北海道でも大沼公園や釧路の春採公園、室蘭公園などの設計に関わっています。明治神宮という限られた空間の中で、わずか100年足らずの間にこれだけの森を作ってきた人間の叡智と自然の力に感服せざるを得ません。そして、森が多くの生き物を育むのいかに大切な場所であるかを改めて確認できました。

緑の羽根募金が始まって70年ほど。私たちもたくさん木を森に植えてきました。今年も皆さんとともに森を作る取り組みを進めていきます。

環境の大切さを次世代に向けて



北海道セキスイハイム
株式会社
代表取締役社長
久宗 弘和氏

当社は、住まいを提供する会社

繋がっていくと思えます。

として、太陽光発電で創エネ、高断熱・高気密の躯体で省エネ、蓄電システムで蓄エネを高いレベルで実現させた環境に貢献する商品を開発し、「エネルギー自給自足の住まい」を目指しています。その背景には、地球温暖化ガスの排出量削減に住宅・建築物の省エネルギー化の強化が不可欠であると位置付けられていることや東日本大震災を契機に低炭素・循環型のエネルギー消費社会に急速に転換する必要があることなどが挙げられます。このようなコンセプトの住宅を広めていくことで、温暖化防止に少しでも貢献すると共にそこに住む人の環境意識を変え、「コミュニティ」を創り出すことが出来ると考えています。また、家庭で太陽光発電の仕組みや消費電力の見える化等に触れ合うことで、次世代を担う子ども達への環境教育にも

今後、地域に貢献する活動として、進化した環境貢献製品を市場に提供させていただくと共に自然環境を守っていく活動も合わせて継続していきたいと考えています。当社は道民の森・神居尻地区における水源地での植林活動を通じて、地域社会の自然環境を保全する取り組みを継続してきました。社員や社員の家族が植林活動の意義や大切さを理解するいい機会になり、また、このような活動を継続していく事がいかに重要かを改めて考える貴重な体験になりました。特に子ども達には、木に触れ、森林のことを学び、自然環境の大切さを感じてもらえる素晴らしい機会であったように思えます。次世代に北海道の環境を守る意識を付けてもらい、その輪を広げていくことを我々の役目として今後も取り組んでいきます。